

会員の広場



渋谷大開発と水道塔

坂本 正治（東京）

現在、東京の渋谷駅は、エレインが林立し、大改造中である。東横線の地下化を皮切りに、東急百貨店の3階にあった地下鉄銀座線のホームが、東側の渋谷ヒカリエの方に移動する予定だ。また、JR埼京線のホームも山手線に近づくので、乗り換えが随分便利になる。

これらの工事は列車を運行させながら行なわれており、その技術力と努力は高く評価できる。迷路のようだと評判の悪かった渋谷駅もスッキリした姿に変身するだろう。

駅の周辺も建設ラッシュだ。2012年に竣工した渋谷ヒカリエに続き、宮下公園の前に渋谷キャストが出来、まもなく駅に隣接して地上47階建ての渋谷スクランブルスクエアが開業する。プロジェクトが目白押しだ。

渋谷は渋谷川の谷あいの街で狭く、新宿、品川、東京駅周辺に比べ再開発は遅れていた。それが一連の工事でも今後ITやファッションを中心とした一大ビジネス街になる。従来から若者の街で、ハロウィーンや大晦日に大勢の人が集まる。スクランブル交差点は観光客

の人気スポットだ。将来、狭い空間に高層ビルが林立して出来る、新しい景観が楽しみだ。この大変身を遂げる渋谷から田園都市線で10分。桜新町の駅近くで、家並の間に注意して見ると、円形の塔が二つ並んでいる。東京都水道局駒沢給水所の双子の水道塔だ。これらは1923年に竣工し、当時の関東大震災にも負けずに屹立している。高さ30m、直径12〜14mのコンクリート製。大正ロマンの雰囲気を湛えた姿が美しい。

駒沢給水所は、渋谷に清浄な水を供給するために建設された。明治後期、渋谷は景色も良く、空気もきれいだとして当時人気の「住みたい街」であった。ただ問題は飲み水。低高度では、水は出るが水質が悪かった。また高

台の土地では水質は良いがすぐ涸れてしまう。そこで多摩川の水を引くことになり、近代日本の水道の父と呼ばれる中島鋭治博士のもとで工事が進められた。世田谷の砧浄水所で多摩川の伏流水が取水され、一旦駒沢給水所に送られ、そこから渋谷まで一気に送水された。これで、渋谷の水問題も解消したのである。つまり、駒沢給水塔は大発展している渋谷を陰で支えてきたというわけだ。

現在は非常用の水の貯水に使われているだけだが、塔は地元の人達に愛され、風景資産保存会（愛称・駒Q）が活発に活動している。今の時代、新しいものをドンドン造る活力とともに、古き良きものをいつまでも大事にしていく心の余裕が必要だ。